

## 未来型水循環モデル“にかほ” 若者がミズから描く未来討論会

2月3日、にかほっこで「若者がミズから描く未来討論会」が開催されました。地元から仁賀保高校生徒会の皆さんのが参加したほか、秋田高専と秋田大学、また県外からは専修大学と中央大学の生徒・学生らが、水資源豊富なにかほ市の未来を“ミズ”から描いたアイディアを発表。後半、市川市長や懇飛良泉本舗・斎藤専務らを交え討論会が行われました。



▲にかほ市の水の現状と課題について発表した仁賀保高校・生徒会

## 全国で活躍する、みんなの先輩 平沢小学校・ようこそ先輩集会

2月5日、平沢小学校で増村エミコ先輩を招いて「ようこそ先輩集会」が行われました。平小時代に吹奏楽部で音楽の基礎を学び、高校卒業後に上京、19歳でゴスペルグループのオーディションに合格した増村先輩。以来、ボイストレーナーやバックコーラスなど音楽活動に幅広く携わり、現在はゴスペルグループ・ボジャテンションで活躍しています。



▲「アメイジング・グレース」、アンコールでは「オーハッピーデー」を熱唱

## 鬼は外、福は内 ひまわり保育園節分行事

2月1日、節分の日に先立ちひまわり保育園で毎年恒例の節分行事が行われました。節分に関するお話をクイズ、そして自分で作った鬼の面を披露し楽しそう過ごしていると、突然「悪い子はいねがー！」の鬼の声、驚き泣き出す園児がいる中、果敢に豆を投げ鬼を退治する園児もいて、鬼は「参りまいしたあ」と山へ？帰っていました。



▲魔を滅するという意味を込めて豆を投げました

## 300年以上続く伝統の奇祭 掛魚まつり

2月4日、金浦地域で古くから伝わる掛魚まつりが行われました。あいにくの雨の中での開催となつた本行事、重さ10kg以上ある寒鱈を2人1組で担ぐ姿を一目見ようとたくさんの参拝客やカメラマンが境内を埋め尽くしました。また、向かいの勢至公園では、市が全国に誇る鱈汁の販売が行われ、旬の味覚を楽しむ観光客の姿が見られました。



▲2人1組で担ぐ光景は300年以上経った今でも変わりません

## 冬のねむの丘が熱く盛り上がる ねむの丘20周年記念イベント冬まつり

1月27日、道の駅象潟でねむの丘20周年記念イベント冬まつりが行われました。時折雪が舞う中始まった当イベント、男鹿なまはげ太鼓「恩荷」のライブには大勢のファンが詰めかけ、観客は迫力あるばちさばきに魅了されました。また、無料で鱈汁が振舞われたほか、ひまわり会の民謡や超神ネイガーショーも行われ来場者を楽しませました。



▲寒さも吹っ飛ぶ迫力あるライブ

## 北前船の歴史的ご縁が結ぶ にかほ市・泉佐野市 地域産業の活性化協力協定締結式

1月30日、にかほっこで大阪府泉佐野市と地域産業の活性化協力協定の締結式が行われました。

北前船での往来による歴史的ご縁が結んだ本協定で、今後は両市の地域産業の活性化に向け相互協力が図られます。泉佐野市・千代松大耕市長は「本協定を新たな契機として、にかほ市が持つ豊富な地場産品を市民にPRしていきたい」と話されました。



▲がっちり握手を交わす泉佐野市・千代松市長(写真:右)と市川市長

## 冬のジオサイトを楽しむ ジオサイトスノートレッキング

1月26日から2月23日にかけて5回にわたり、巾山スキー場から冬師湿原までをスノーシューで歩くジオサイトスノートレッキングが行われ、あわせて82人が参加しました。初日の1月26日には、市内外から12人が参加し、一面銀世界の林の中を歩きながら、動物の足跡や樹木の冬の新芽など、冬ならではの発見を楽しみました。



▲天気にも恵まれ気持ちよく新雪の上を歩きました

## 南極点、行つてきました！ 第52回白瀬中尉をしのぶ集い

1月28日、郷土の偉人・白瀬矗をしのび、雪中行進と講演会が開催されました。激しい風雨の中でしたるが、市内小・中学校の児童・生徒たちは金浦勤労青少年ホームから南極公園までの2.5kmを行進。講演会では、日本人で初めて南極のメスナールートを単独徒步で踏破した“夢を追う男”阿部雅龍氏が、南極点までの約920kmの道程を語りました。



▲白瀬中尉が断念したルートでの南極点到達が最終目標と語る阿部雅龍氏